



第9期 廃棄物減量等推進員（ごみゼロリーダー）の委嘱へ

大阪市廃棄物減量等推進員（愛称：ごみゼロリーダー）については、平成15年10月に制度を創設し、全市で約4,000名に対して市長から委嘱のうえ、地域におけるごみ減量・3Rの普及啓発や実践活動について、環境事業センターと連携・協働して取り組んでいただいているところです。

現在、活動していただいている第8期ごみゼロリーダーについては、令和2年3月末で任期満了となりますが、再任を妨げないこととなっていますので、引き続きのご活躍を、お願いします。

「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」

〈第5条の8〉

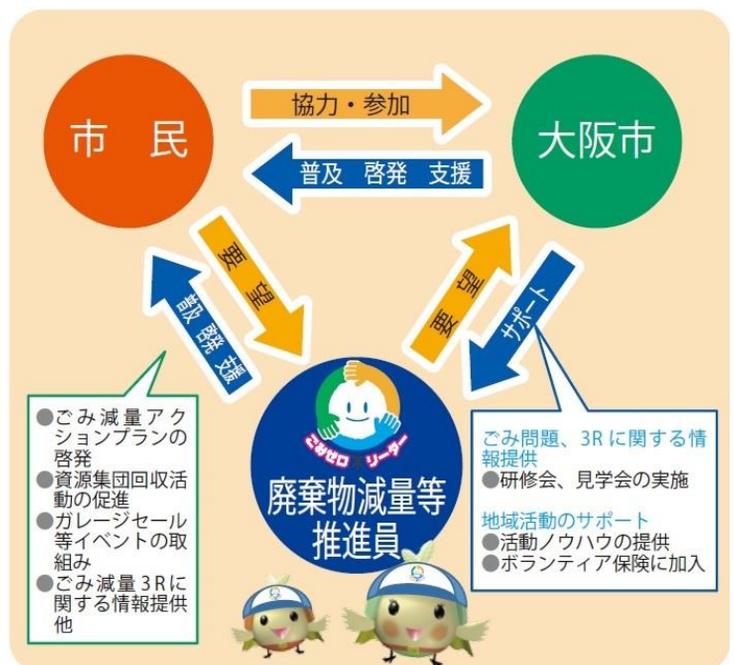
- ① 市町村は、社会的信望があり、かつ、一般廃棄物の適正な処理に熱意と識見を有する者のうちから、廃棄物減量等推進員を委嘱することができる。
- ② 廃棄物減量等推進員は、一般廃棄物の減量のための市町村の対策への協力その他の活動を行う。

※廃棄物減量等推進員は、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」第5条に規定されています。

ごみゼロリーダーの役割

ごみの減量と3R(リデュース:発生抑制・リユース:再使用・リサイクル:再生利用)を推進するためには、市民の皆さんの自主的な取組みを促進することが必要です。そのためには、地域活動協議会、地域振興会などの住民組織の地域ぐるみでのご理解とご協力が不可欠です。このため、推進員の皆さんは大阪市長から委嘱を受け、ごみの減量と3Rを推進する地域のボランティアリーダーとして、また大阪市と地域の住民とのパイプ役として、活動をしていただくこととなります。

なお、推進員としての活動を行う際は、推進員であることを証明する「廃棄物減量等推進員証」を携帯し、必要に応じて帽子を着用してください。



なぜ、ごみ減量が必要なのか？



ごみゼロリーダーの活動は、ごみ減量が大前提ですが、なぜごみ減量が必要なのか？

現状のごみ量のまま推移すると、日本の最終処分地の残余年数はあと20年しかありません。

ごみを燃やすと10分の1の灰や燃えかすが残り、最終処分場に埋め立てられます。また、不燃物や粗大ごみも埋め立て処分されています。この様なごみを出来る限り減らしていくことで、最終処分地の延命につなげていく事が重要です。ごみゼロリーダーの皆さんは、一人でも多くの方にごみ減量の意識を持ってもらえるように地域における先導役となっていきたいと思えます。

普通ごみの中に、まだまだ分別できるものが含まれています。

普通ごみとして捨てられた「その他の紙」(平成30年度)



平成30年度に実施した家庭ごみの組成分析調査結果から、普通ごみに含まれる古紙の推計量を試算したところ、古紙・衣類の分別対象品目となっている「その他の紙」が約3.1万トンも普通ごみとして捨てられていることが分かりました。これは、新聞やその他の紙などを含めた大阪市の古紙回収量(約1.8万トン)を大きく上回るもので、内訳を見ると、食料品や日用品などの紙箱が9千トンと最も多く、紙袋も2千トン含まれていました。

改めて、古紙・衣類の分類を



①新聞・折込チラシ

片手で持ち上げられる程度の量までを4つ折りし、**ひもで束ねて**お出してください。

又は、新聞販売店で配られている透明もしくは半透明の新聞回収袋でお出してください。



②段ボール

粘着テープ・カーボン紙(宅配伝票など)をはがし、**折りたんで**10枚程度までを**ひもで束ねて**お出してください。

※簡単に取れない金属製の留め具は外さなくてもかまいません。



③紙パック

水洗いして、切り開き、乾燥させてから、**ひもで束ねるか**、中身の見えるごみ袋に入れてお出してください。



④雑誌

- 週刊誌 ●専門誌 ●漫画本
- 単行本 ●カタログ ●教科書
- パンフレット ●辞典など

片手で持ち上げられる程度の量までを、**ひもで束ねて**お出してください。

※雑誌としてしている留め具は そのままでお出してください。



⑤その他の紙

ひもで束ねるか、中身の見えるごみ袋に入れてお出してください。



⑥衣類

- ジャケット ●シャツ ●ズボン
- セーター ●スカート
- ジーンズ ●コートなど

洗濯し、乾かしてから、中身の見えるごみ袋に入れてお出してください。雨などで衣類がぬれぬれしないよう袋の口をしっかり閉じてお出してください。

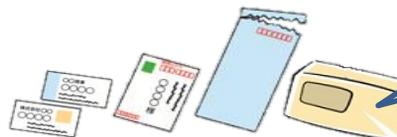


シュレッダーした紙



紙箱

ビニールは外して普通ごみへ



名刺・はがき・封筒

ビニール窓は外して普通ごみへ



トイレットペーパーなどの芯



値札

金具は外して普通ごみへ



ポスター



包装紙



紙袋

紙以外の紐は外して普通ごみへ



紙製ファイル



カレンダー

持続可能な開発目標 SDGsとは？



皆さんは、テレビや新聞などで、SDGsという言葉を見たり聞いたりしたことはあるでしょうか？

持続可能な開発目標(SDGs)とは、2001年に策定されたミレニアム開発目標(MDGs)の後継として、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された2016年から2030年までの国際目標です。

持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成され、「誰一人取り残さない」社会の実現をめざし、経済・社会・環境をめぐる広範な課題に統合的に取り組むものです。

皆さんで、取り組めること

国際目標というと、地方自治体には関係ないと思われがちですが、実は、皆さんが日常の暮らしの中で行える事も多くあります。

例えば、お買い物時にマイバックを持って行き、レジ袋を断る事により、廃棄物の発生を抑制する事ができます。また、一般家庭から出される、手つかずのままの食品や食べのこしが、年間約4万トンも捨てられていることから、缶詰やインスタント食品等の未開封のもので、常温で保存でき、賞味期限が一定期間以上残っている食品であれば、フードドライブへの提供で食品の無駄な廃棄を減らすことに貢献できます。

SDGsの中には、「海の豊かさを守ろう」というものもあり、近年の海洋プラスチック問題も該当します。ご家庭から出たプラスチックは、しっかり分別して収集日に出す様にお願ひします。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



SDGsとは、「Sustainable Development Goals」の略称のこと

